

《今年度の出題傾向》

公立高校の入試問題レベルを目安として、地理・歴史・公民の3分野から出題。複数分野にまたがる問題も出題されることがあり、配点の割合は地理的分野2割、歴史的分野5割、公民的分野3割となっている。

教科書を主とした語句や内容の問題であるので、記述式・記号式に関わらず教科書の範囲内容を丁寧に抑えておく必要がある。また、時事と絡めた出題傾向も多くみられるため、ニュースなどに触れる機会を増やしておくことが望ましい。

《各問の出題と解説》

【1】世界地図を見て、問に答えていく問題。「世界の異常気象」を題材とした。

問1 単純に世界の国名と位置を一致させる問題である。世界の主な国と位置は、確認しておくこと。それ以外の問は、「緯線経線」に関する問題。「本初子午線」と「日本標準時子午線」は、地球上の位置を知る場合に基準になるものなので、しっかり確認が必要である。

問4 時差に関する問題。経度15度で1時間の時差が出ることは、知っておく必要がある。

【2】昨年、世界遺産に登録された「奄美大島・徳之島、沖縄島北部及び西表島」や世界遺産に関連する都道府県についての問題。

問1 (1) 鹿児島県の農業産出額の割合について。ここは、シラス台地など、農業に適さない土地が多いことから畜産が盛んな地域である。

(2) 沖縄県について。南西諸島にはさんご礁が多く、生物のすみかとなっている。観光業は第三次産業なので注意。

問2 地図から黒潮の流れている位置を選ぶ問題。同じ暖流である(ウ)の対馬海流と間違えないように。

問3 (1) 「知床」が属している北海道についての問題。(エ)以外は他地方の特徴である。
(2) 以前は遠洋漁業(北洋漁業)が盛んに行われていたが、排他的経済水域の設定や母川国主義が主張されると、衰退し現在では栽培漁業が盛んになっている。

【3】中世の世界史に関して各国を比較して問う問題。

アメリカ、イギリス、フランスのそれぞれの国としての成立過程や変化をしっかり追って学ぶことが重要。史料問題については、いずれも教科書の欄外に記載のあるものなので、名称と内容を必ず確認をしておくことが必要。

【4】東北地方の歴史になぞらえて江戸時代までの日本史を問う問題。

時代をまたがって幅広く出題されるため、時代の大きな流れをまず確認し、細かな語句を学んでいくことが求められる。選択肢の問題も多く解答しやすいが、記述問題については漢字まで正しく書けるように。

【5】近代史を中心とした史料を使った問題。文化史をテーマに出題した。

小説『舞姫』を題材とし、作品の中から明治時代の文明開化の風潮や、作者の新しいものへの関心をうかがわせる記述を通し、明治時代に関する知識を問う出題をした。いずれも基本的な設問ばかりで、選択肢の問題が多いこともあり答えやすい。

【6】文化史をテーマに、三つの写真を見て、それに関する設問に答える問題。

こちらも明治時代～大正時代の文化史の作品、同時期の政治史の問題、明治～戦後までに関わる文化史的な問題などを出題した。問2の記述式の問題がやや難しいと思われる。

【7】公民分野に関して幅広く問う基本的な問題。

社会科の総合的な知識を問うた。問5のパスポートの性別については、各国の様子を理解したうえで、類推する問題であった。

【8】時事問題や現代の日本を取り巻く状況の理解を問う問題。

教科書の内容と関わる内容について、日頃からニュースなどで最新の時事情報を取り入れておく必要がある。